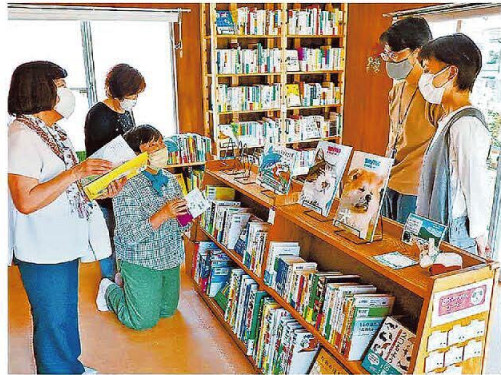


えがおと幸せのおすそわけ

岡山県早島町・早島小1年 平松 聖さん



本を手にする喜び、おすそわけ。玉野市田井に6月オープンした「ちいさな本やマルコ」には、来店者を結ぶ小さなコーナーが設けられている。

「絵本が好きなんへ」「田井小学校の生徒さん」「おぼあちゃん」と来た人に「張り出された「おすそわけん(券)」には贈り先と寄付額が書かれ、訪れた客が該当すれば本を購入する際に割引に使ってもよい仕組みだ。

「特に子どもが気に入った本を買った後押しになればと思って」。店主の千田真美さん(48)と夫の潤さん(47)は昨年2月に東京から移住。自宅の離れを使い、個人書店を開く念願をかな

あかり

本買う喜び“おすそわけ、

えた。おすそわけんは、貧困問題に取り組むNPOが営むカフェのサービスを参考にしたという。地区の回覧板やSNS(交流サイト)で紹介すると、賛同したお年寄りや同世代の客が次々訪れ、自分の本を購入するついでに券を書き、「おすそわけ」してくれた。地元の保育園児も来店し、絵本などを買うのに券を利用してという。

「食べるのが好きな人」という300円券を使い料理本を買った上原秀樹さん(67)「同市宇野」は、自身もお返しに同額を寄付した。一店を訪れた人の間で親切の輪が広がっていきのうがうれしい。利用者が希望すれば、寄付した人へのメッセージを券の裏に書き、店を通じて渡すこともできる。

店内は千田さん夫婦が選んだ絵本や小説、図鑑、写真集など900冊ほどが並び、客が憩えるスペースもある。「本で人と人をつなぐ、誰でもリラックスできるような場所にした」と真美さんは話す。

営業日は木、金曜午後1時〜6時、土曜午後1時〜5時。
(黒瀬空)

千田さん夫婦(右側)が開いた「ちいさな本やマルコ」。おすそわけん(右下)を通して本好きの輪が広がっている。

わたしはこのきじをよんで、「おすそわけ」はみんなをえがおにしてくれるすごいパワーがあるとわかりました。そして、「おすそわけん」があるこの本やさんは、やさしくてあたたかい気持ちであふれていて、

2023年7月18日付 山陽新聞

本を買う喜びを“おすそわけ、できる書店を知り、自分も「どうぞの心」を大切にしようと感じたことを素直に表現しています。読む人を温かい気持ちにする文章です。

寸評

みんなをえがおにしてくれる幸せいっぱいの本やさんだと気がつきました。

おすそわけでえがおにできるのは本だけじゃありません。わたしのまわりにも、いろいろなおすそわけがあります。「今年はずっと来たからどうぞ」と親せきのおばさんからもうやさしいやくだもの、「たくさんつれたからおすそわけ」と近所のおじさんは大きな魚を持ってきてくれます。ちがう日には、「たくさん作ったから食べてみてね」と近所のおばさんの手作りドーナツやケーキ。どれもおいしくて、わたしはおすそわけでいつも幸せな気持ちになっています。このたくさんの「どうぞ」のおすそわけは、みんながえがおで幸せになれるふしぎなこトばです。

「どうぞの心で、えがおと幸せのおすそわけができるんだよ」とおしえてくれるお母さんも、友だちや近所の人によさいやおかしをおすそわけして、幸せをくばります。そして、きなくなった子どもふくがあれば、すてずにきれいにせんたくをして、ひつような人に声をかけてふくをわたしています。「ふくをゆずることも、幸せのおすそわけの一つだよ」とお母さんはわたしに話してくれます。

おすそわけは人と人をつなぐ力があります。「どうぞの心」でおすそわけをすると、みんなが幸せでえがおですごせられるようになります。やさしくてあたたかいせかいになるように、わたしにもできるえがおと幸せのおすそわけをしたいです。